

第6次中期事業計画_具体的施策

基本戦略項目		目標値（KGI）	年次計画				
			2025	2026	2027	2028	2029
教育	A．生物学と生命科学の教育を柱にSTEAM教育を地域や企業と連携して充実し、学んだ専門知識・能力を社会実装できる態度を養う。	・全開講科目の7割以上でアクティブ・ラーニングを導入する。（2023年度62.3%） ・授業外での学生の学習時間を2024年比で1.5倍になるように学習支援をする。 ・標準年限で卒業する学生割合を9割以上になるように学生を支援する。	①アクティブ・ラーニング導入科目の充実・増加支援 ②シラバスの明確化				
			KPI：アクティブ・ラーニングを導入する授業の割合を全体の64%にする。	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
			①授業外での学生の学習時間の把握 ②授業外学習の支援 ③授業時間外に質問しやすい環境づくり ④シラバスの明確化				
			KPI：授業外での学生の学修時間を2024比1.1倍にする	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
			①企業および地域の振興推進や課題解決のための連携教育プログラム構築 ・人材育成コンソーシアムの協力を得て、教育プログラムの開発に着手	試験的に人材育成プログラムで導入する企業連携授業を実施。	人材育成プログラムを実施するための新カリキュラム検討。		
			KPI：コンソーシアムに賛同する企業による講座を2回/年実施				
			①現カリキュラムの見直し ・低年次から大学院における研究に触れることができる様に見直しを検討。 ②SA雇用の促進 ・学部生の段階から授業補助の経験を積むことができる体制整備。経済的支援と研究経験を同時に提供。				
教育	B．大学院での学びを志向する学生に対して、学部教育段階から一貫して支援する仕組みを充実させる。		KPI：カリキュラム案作成				
教育	C．学びの過程における自己肯定感と協働性を育み、学生のウェルビーイングを高める学習の支援体制を強化する。		①ウェルビーイングの指標の策定 ・指標のひとつとして、学習ポートフォリオの導入を検討 ・組織を横断した情報共有・支援体制の整備 ②学生のウェルビーイングを考慮したカリキュラムの検討				
			KPI：学習ポートフォリオ導入検討着手	KPI:学習ポートフォリオ導入検討	KPI:学習ポートフォリオ選定	KPI::学習ポートフォリオ導入、運用	KPI::学習ポートフォリオ運用
教育	D-1．カリキュラム改革を通じて、教育編成の柔軟化を図るとともに設置科目の思い切った厳選化を図る。		①現カリキュラムの見直し ・ICTを活用した教育の充実 ・学生、教員数に対して適切な科目数への厳選化の検討。 ・同時に新カリキュラムにおいても適切な科目数の設定を考慮				
			KPI：カリキュラム案作成 ・LMS（manaba）を利用して、授業資料の提示、課題の提出、小テストの実施、出席管理、フィードバックの提供などをおこなう授業の割合を2029年度までに全体の95%以上とする。				
教育	D-2．一定の学力を前提に教育するのではなく、学力に関わらず学ぶ意欲のある学生が主体的に学べる教育・学習指導を実践する。		①履修面談の強化 ②支援体制の連携 ③学力に関わらず学生が主体的に学べる教育体制を実現できる新カリキュラムを検討				
			KPI：R・Y生の減少				
研究	A．研究水準を引き上げるために、個人研究からだけでなくグループ研究からも研究成果があがるよう研究体制を整備する。これにより、助手・助教の研究パフォーマンスを引き上げる。	論文数を2024年比で1.3倍にする。	・若手研究者の科研費申請率の向上。 ・研修会の実施 ・学内共同研究充実のための指導体制の整備。 ・若手研究者と客員教員含むシニアの先生とのマッチング。				
			KPI： ・若手研究者科研費申請率50%以上 ・学内共同研究数年2件以上 ・若手とシニアの先生のマッチング（共同研究数）5件以上	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
研究	B．大学としての研究支援体制を充実させる。	外部研究費の受け入れ件数を年間35件以上確保する。	・連携の推進を支援すると共に、学内外の研究者、企業関係者のネットワーク構築を促進するための人材を登用する。 ・地元企業への本学シーズの紹介を積極的に行う。 ・地元企業や県外の企業などに向けて研究成果発表会を開催する。 ・クロスアポイントメント、クラウドファンディングなど実施できるように環境を整備する。				
			KPI： ・起業化を前提とした共同研究支援を年1件以上 ・BIコンソで関連する支援した共同研究年1件以上 ・リエゾン機能,マッチング機能として大学からの研究成果発表年1回 ・URAの支援による大型プロジェクト年1件以上	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			

基本戦略項目		目標値（KGI）	年次計画				
			2025	2026	2027	2028	2029
学生生活	A-1.キャンパスにおける学生のウェルビーイングを高めるため、学生同士でくつろげる環境を学内に整備する。 A-2.また、学生の自発的な活動を支援する。	日常的に教員・学生・社会人が交流する施設整備を含めた環境を実現する。	学内環境整備ならびに経済支援を基盤とした自発的な学生への支援 ※2025年度は学生が求めている学内環境の調査・従前から課題である業務の改善をはじめとしたソフト面での施策を実施。				
			KPI：外部奨学金（JASSO除く）への申請数を年間10件維持する。	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
学生生活	A-2.また、学生の自発的な活動を支援する。 B.地域での活動を学びの場としても位置付け、学内外の企業・団体・個人と連携した活動を支援し、大学での学びと社会課題とのつながりを意識した学びを支援する。	社会人等との共同した課外活動等を年間10件以上となるように学生支援を行う。	①社会連携・地域課題解決を目的とした学生活動の強化 ②低年次生の課外活動への参加促進				
			KPI： ①新規団体結成数 3団体/年 ②課外活動への加入率（参加率）を2024年度比で10%増加させる。	-	-	-	-
学生生活	C.食堂を改修するとともに、売店を充実し学生のニーズに応えられる福利厚生施設にする。	日常的に教員・学生・社会人が交流する施設整備を含めた環境を実現する。	福利厚生施設・学生寮の改善に向けた調査、関係部署との意見交換・調整、 福利厚生施設・学生寮の改修計画確定	福利厚生施設改修	福利厚生施設改修	福利厚生施設・学生寮の改修	
			KPI：学生を含めたワークショップの開催 2回/年以上	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
学生生活 /規模	D.多様な学生に対応した学生生活支援、指導の充実を図る。 ◎規模 A.学部で800人規模の学生数を確保する。合わせて、大学院生および社会人学生の確保に務める。	日常的に教員・学生・社会人が交流する施設整備を含めた環境を実現する。 ◎規模 標準年限で卒業する学生割合を9割以上になるように学生を支援する。	多様な学生に対応するための環境整備 ①医療的なケア・ニーズ ②障害支援ニーズ 学生のWell-being向上の為、組織を横断した情報共有・支援体制の整備				
			KPI：多様な学生の受入れに必要な施設・環境整備を年間1件以上行う。 研修機会を学内で年間3件（FD・SD研修含む）以上、学外研修への派遣を年間10件を実現する。	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
アドミッション /規模	A. 入学者を文系理系で区別せず、生き物や環境、生物工学やデータサイエンスに興味を持つ高校生全体に入学対象を広げ、大学のイメージが伝わる広報戦略に転換していく。 A. 学部で800人規模の学生数を確保する。	志願者における文理比率を1：1になるように学生募集に取り組む。	・ブランディング広報の展開 ・高校との接点強化 ・入試制度の検討				
			KPI: 文系学生志願者30名	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
アドミッション	B. 在学生の男女比率を同等にすることを目指す。	志願者における文理比率を1：1になるように学生募集に取り組む。	・新たな研究プロジェクトの創出 ・女子学生のロールモデルの提唱				
			KPI: 女子学生の入学者比率35%	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
アドミッション	C. 総合型選抜・推薦入試といった年内入試の志願者を増やすために、高校訪問の仕方、大学ホームページを含むメディア配信のあり方を、在校生の声を取り入れ教職員・在校生が協力して行う入試広報を検討する。	教職員及び学生が企画した学生募集イベントを年間10件以上実施できる体制を構築する。	①入試方式の検討 ②高大連携のあり方の見直し ③OCの再検討 ④高校訪問の情報の質を高める ⑤ターゲットを明確にしたweb広報 ⑥教職員・学生協働でのOCを含めた広報展開				
			KPI: 地域でのイベントを年4回開催	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
アドミッション	D. 近隣地域からの志願者及び入学者確保を主軸とし、滋賀県、岐阜県などの通学可能な地域を対象に高校の進路指導への働きかけを強める。	年間入学者の出身高等学校数を150校以上、内複数名が入学する高校数を40校以上にする。	・理科系教員への関係構築 ・高校へのアプローチ強化				
			KPI: 高校訪問回数年間230回	-	-	-	-
アドミッション	E. 留学生および社会人を積極的に確保する。	社会人の履修者数（受講者数）を50名以上確保する。	・日本語学校との連携強化と情報発信を最適化				
			KPI: 留学生15名	-	-	-	-
アドミッション	F. 本学への進学に興味を持った志願者をフォローアップできるよう、ITツールの活用により事務効率を図りながら一人一人の志願者に対応することを強化する。	・志願者における文理比率を1：1になるように学生募集に取り組む。 ・年間入学者の出身高等学校数を150校以上、内複数名が入学する高校数を40校以上にする。	①デジタルマーケティングの強化 ②LINEを活用したアフターフォロー ③競合校分析				
			KPI: 複数回のコミュニケーションが取れるアクティブ層の高校生50名	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
アドミッション	A. 大学院生および社会人学生の確保に努める。	社会人の履修者数（受講者数）を50名以上確保する。	・学内向けのガイダンス強化 ・他大学の学生に向けた情報発信 ・研究員制度等、企業に向けた発信				
			KPI:大学院生確保のためのガイダンスを3回実施（学外向け含む）	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			

基本戦略項目		目標値（KGI）	年次計画				
			2025	2026	2027	2028	2029
産官学連携	A.バイオものづくりがこれから伸びていくことを踏まえて、バイオ技術の活用を期待する多様な産業界との連携を強化し、教育・研究に反映させる。とりわけ、医薬業界、食品業界だけでなく情報系、製造系の企業、金融業界との連携を進める。	・産学連携プログラムにおいて20 社以上の協力企業等の賛同を得る。 ・年間 20 件以上の産学連携プログラム関連講座等を実施する。 ・社会人の履修者数（受講者数）を 50 名以上確保する。	産学連携人材育成コンソーシアム事業の始動と関連講座の開講	産学連携人材育成コンソーシアム講座のカリキュラム化検討			産学連携人材育成コンソーシアム講座カリキュラム開始
		KPI：コンソーシアムに賛同する企業による講座を2回/年実施	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し				
産官学連携	B.産官学連携は産業界・行政と大学とのネットワーク型の連携であり、それぞれが自立した主体として連携を構築することに意味がある。大学の自主性を堅持しながら連携を広げていく	産学連携プログラムにおいて20 社以上の協力企業等の賛同を得る。	産学連携人材育成コンソーシアム事業の始動と賛同企業の開拓				
			KPI：コンソーシアムに賛同する企業開拓3件	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
産官学連携	C.大学の研究成果を活かした起業への支援を強化していく。	大学関係者（教員・大学院生・大学生）および大学が支援した者による起業件数を累計5件以上達成する。	産官学連携促進の取組				
			KPI：産官学連携の促進に関わる外部研修に年間5名以上派遣する	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
産官学連携	D.大学の教育・研究内容について外部の産業団体やシンクタンク等に評価してもらい、その結果を広報することにより、産業界との連携を広報にも活用する。	産官学連携活動に関するメディア発信を強化し、年間20件以上のメディア掲載等を達成する。	地域連携・産官学連携の成果を周知し、新たな連携の創出を図る取組				
			KPI：地域連携・産官学連携活動の成果を年間2回（6件）以上発信する。	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
ガバナンス	A．大学運営に関する重要事項については全学で協議する場を設ける。	・DX化を進め事務職員の残業時間の5割削減、教員の事務作業時間の軽減を実現する。 ・委員会数の 2 割削減、各委員会の会議時間の 3 割削減ができるように学内体制を改善する ・一般寄付金の獲得および資産運用益で年間平均3,000万円以上を達成し、収入確保に努める。	全教職員から意見聴取する場を設け、執行部と教職員のコミュニケーションの充実を図る。				
ガバナンス	B．大学運営のDX化を推進し、業務効率の改善、データドリブンな意思決定を行うとともに、セキュリティ機能		KPI：全員集会2回以上/年	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
			定型業務の洗い出しと業務効率改善のための取捨選択。				
ガバナンス	C．各種組織・委員会の輻輳化を避け、簡素化を図るとともに、役割を明確化し、組織力の強化を図る。		KPI：紙ベースでの申請書類等の電子化10件以上	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
			自己点検の実施による各種組織・委員会の業務改善の検討。				
ガバナンス	D．将来の大学の競争力は現在の投資計画に左右されるという考えに立ち、大学発展に必要な投資は計画的に行う。		KPI：各組織改善項目5件以上	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
			対応年数を超えた施設設備の改修および将来計画の見直し。	改修計画に基づいた施設・設備改修			
ガバナンス	E．第6次中期事業計画期間中に財政を健全化させる。		KPI：修繕費を前年比5％削減	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し			
		安全性・収益性を担保した機動的な資産運用による運用益の確保。					
		KPI：運用益を前年比10％増加	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し				
		保護者、卒業生、企業などステークホルダーに対する寄付金活動の強化					
		KPI：企業および個人からの寄附金額を前年度比で5％増加	各年度ごとに検証し必要に応じてKPIの見直し				